

## 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

作成日 平成 19 年 9 月 28 日

事業所番号	2772402703	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	有限会社 ウイズ・ケアサポート		近畿マネジメント・サポート・センター
事業所名	グループホーム そおれ	所在地	大阪市東住吉区山坂5-5-14-103
所在地	枚方市長尾元町6丁目26番1号 (電話) 072-864-5788	評価調査日	平成 19 年 9 月 21 日
		評価確定日	平成 19 年 9 月 29 日

4

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日
ユニット数	ユニット 1 利用定員数 9 人
職員数	9 人 常勤 3 人 非常勤 5 人 常勤換算 6、7 人

## (2) 建物概要

建物の構造	鉄筋 造り 4階建ての 2階部分)
-------	----------------------

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	54,000円	その他の経費 (月額)	15,000円	
敷金	有 (60,000円)			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	無	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,680 円	

## (4) 利用者の概要 (9月21日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢 平均	83才	最低	73才	最高	93才

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 昭征会 たかま歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

利用者をお客様という立場で尊重し、笑顔と感謝の心で運営している。利用者の日常生活は職員のチームワークで、笑顔で暖かい見守りと、適切な介護のうちに過ごしている。また、利用者個人の毎日の症状の観察と記録は職員会議でまとめ、3ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	利用者個々の部屋の雰囲気は夫々の好みに合わせ、ご家族と職員も手伝っている。部屋が洋室の感じがあるので、入居までの家財にこだわらずに相応しい部屋となるよう飾られている。職員の育成は、年間計画を作成し、それに従って実施され、研修資料類は各自ごとにファイルされている。月1~2回開催の職員会議、研修会は有給で行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価項目が前回よりも増加したので、運営者、職員は去年より更に厳しい意識を持って話し合いと検討が行われ、職員の反省と研修の機会となっている。
重点項目③	運営推進会議が定期的で開催され、地元の方々のグループホームへの理解が進んで来ている。また、包括センターを通して他のグループホームの担当者との交流を検討している。当ホームの2番目のホームが枚方市駅の近くに開設できたので、より広く他事業者との介護情報の交流が期待される。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7、8)
重点項目④	ご家族アンケート結果では殆ど、ご家族が満足され、安心しておられる。今まで特に難しい苦情は無かったが、苦情や問い合わせがあれば、必ず返事をするようにしている。ホームだよりは年数回、多数のカラー写真入りの楽しい画面構成で発行され喜ばれている。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	運営推進会議の結果、地元の自治会、民生委員の方々とも懇意になって来ている。最近では地元の方々との行事の交流が増えて来っており、また利用者も散歩中に馴染みになった方々と声をかけ合い、対話が行われている。保育園との交流はホーム開設当初から行われて、利用者に喜んで頂いている。

評価結果（詳細）

（網掛け部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>					
<b>1 理念と共有</b>					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム そおれの3ヶ条の理念は、ご家族や来客向けの掲示の外、職員の休憩場所や日常使用する介護用各種ファイルの表紙裏にも貼り付けて意識付けている。		
2	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具体化として「今できること」を大切として実行に努めている。日常のケアの出発点は理念からとしている。		
<b>2 地域との支えあい</b>					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	地元の一員としてごく当たり前の交流ができています。		
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	より良いケアを目指して、職員はチームで話し合いと、改善に取り組んでいる。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	運営推進会議が定期的開催されており、地域の方々にグループホームの活動内容はほぼ伝達された様子。今後とも更なる情報交換で介護のレベルアップに繋ぐことが期待される。		
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者はなるべく市役所担当部門との接触を行うよう心がけている。		
<b>4 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	利用者の御家族へは定期的な文書報告を行っている。各種行事についてはカラー印刷の写真入りの便りも適宜送付されている。		
8	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月15日に定例の職員全体の会議を実施、議題についても提案することを指導している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	中心となって活動を担当している職員は7割だが、残りの職員の定着が悪く、新入職員教育の進め方の検討をしている。	○	各種の可能性を組合わせて検討してみてください。

## 5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	大阪府主催の研修会は経験年数を資格要件としているが、職員の参加が可能となって来たので参加させている。職員の意欲喚起もあって「資格試験取得支援制度」を設け費用も含めて薦めている。	○	全職員の研修計画がより充実されることを期待いたします。
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の交流が不十分なように見えます。	○	介護レベルの向上と元気が与えられと思います。交流がより充実出来ることを期待いたします。

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者のご家族との短い日時での話し合いで認知症状の把握は困難である。そのため職員のチームワークで出来るだけの努力をしている。		
--	-------	---	--	--	--

### 2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、理念に基づき介護を実施し、職員は見守り記録を業務日誌に記録し、チームの努力で出来るだけ多くの症状を把握しようとしている。手を出し過ぎないように配慮して見守っている。		
--	-------	--	---	--	--

## III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望やケアの立場で判断に迷う時は理念に戻って検討している。		
--	-------	---	-----------------------------------	--	--

### 2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員で3ヶ月毎にアセスメントを行い介護計画の見直しを行っている。ご家族とは来訪時や行事に参加された時に思いや希望を聞かせてもらって、計画の了承を頂いている。		
--	-------	--	---	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	16	37	<p>○ 現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

### 3 多機能性を活かした柔軟な支援

	17	39	<p>○ 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
--	----	----	--	--	--

### 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

	18	43	<p>○ かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している</p>		
	19	47	<p>○ 重度化や週末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		

## IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 1 その人らしい暮らしの支援

#### (1) 一人ひとりの尊重

	20	50	<p>○ プライバシー確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>		
	21	52	<p>○ 日々の、その人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		

#### (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

	22	54	<p>○ 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
--	----	----	--	--	--

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴時間、曜日は原則的に定めているが、入浴を嫌がることもあり、適宜、個人毎に対応している。		

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランの見直しは、センター方式により職員会議で行い、その後、新ケアプランで、すぐに実施している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している	外出は積極的に日常、行われている。		

(4) 安心と安全を支える支援

26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一般の御家族との共同住宅でもあり(3, 4階)、出来る範囲内で安全に配慮はされているが玄関の鍵は現状では防犯も含めて、かけている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については消防署の指導もあり適宜、行われている。地震、水害については検討課題としている。		

(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援

28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日報で記録されて個人別に管理されている。		
----	----	--	------------------------	--	--

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どの利用者は昼間は主として共用広間で夫々の好みに合った楽しみごとで時間を過ごしている。		
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋毎に職員と共同で壁の飾りつけをしてある。ベッドの枕元の壁に、赤外線センサーが昼間も含めて起き上がり時の安全対策として設置してある。		